

# 床上浸水後の家屋への適切な対応

## <衛生対策の5つのステップ>

### 1. 泥やごみの除去 床下浸水でも水が残っていないかを確認しましょう。

時間がたつほど水分が湿気となり、カビや異臭の原因になります。できるだけ早く作業に着手するようにしましょう。

●床下に水や泥などが入っていた場合、水を抜いてから泥を取り除く。



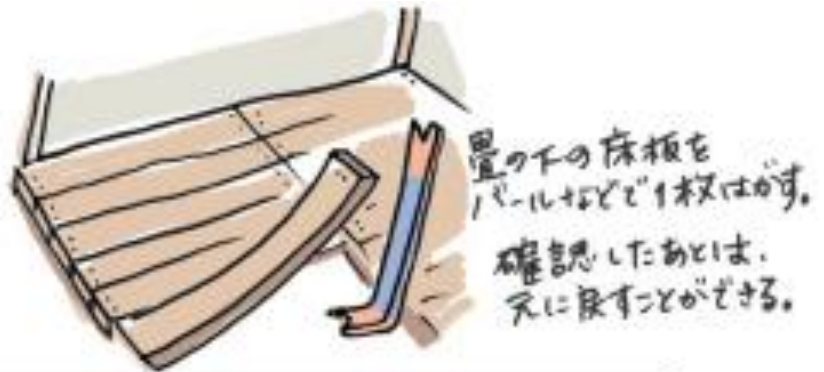
床下に入るときは換気をし、2人以上で作業します。

### (泥やごみ、水が残っていないかの確認方法)

#### A.床下を確認する(床はがし) 床下浸水でも必ず確認することをお勧めします。

##### 和室の場合

- ・畳の下にある板をはがす。
- ・板は無垢材なら洗浄して陰干しすれば再利用可能。
- ・どの部屋の何番目なのか「印」をつけてから外す。

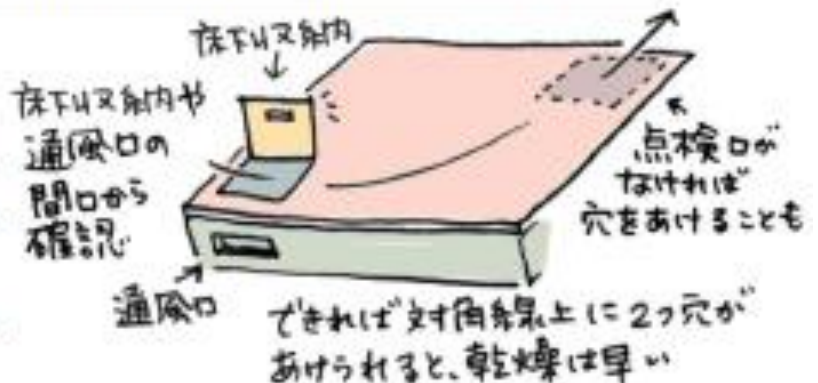


##### ★特に注意すること

- ・サッシや敷居の下に潜り込んでいる板は無理に外さない
- ・一部切断する場合は、根太の中心で切ると再利用可能
- ・根太は切らない、どうしても切る場合は、大引きの中心で切る

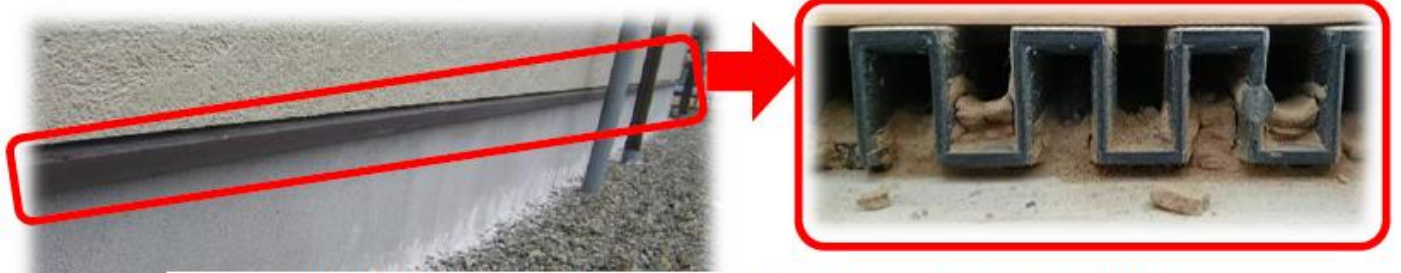
##### 洋室の場合

- ・床下収納、点検口を開ける。
- ・床下に水や泥があれば除去。
- ・点検口などが無い場合は、工務店などで作ってもらう。(相場は2~3万円)



ここも忘れずに！

## 通風口の見えない基礎の確認



この部分に泥等が詰まっていると床下の空気が滞留する

### B.壁材 床上浸水の場合、工務店などと相談し点検

壁材に関しては、工務店などに相談・点検し、撤去等のご検討をお願いいたします。

**注意！** 放っておいた床や壁はこうなる

- 浸水した床や壁を放置すると、カビなどが発生し悪臭のもとになる。特に断熱材がある場合は早めに撤去しましょう。
- 一見何の被害もなさそうな壁も、中をのぞくとカビだらけになっていたりする。



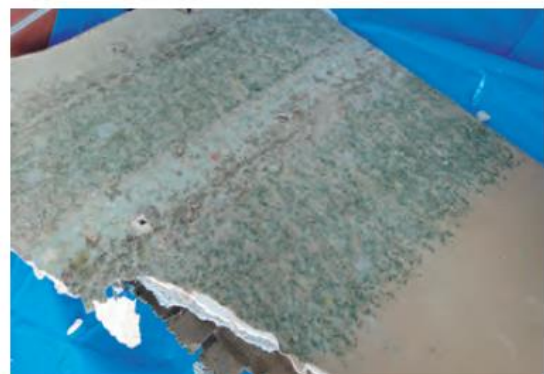
壁をはがすとカビが生えている



水が残って悪臭が発生する



乾燥した汚泥も悪臭の原因に



壁の裏側に生えたカビ

出典：震災がつなぐ全国ネットワーク

## 注意！壁の裏の断熱材

●壁の裏や床下の断熱材は水を吸収しやすいため、放置するとカビが生える。



↑断熱材の取出し

←水を吸った断熱材

2. 洗浄 泥やごみが付着した部分は**必ず**洗浄しましょう。臭いやカビの原因になります。

- けがを防ぐために厚手のゴム手袋、ゴム長靴（あればゴーグルをつけて目も保護します）、ほこりを吸い込まないためにマスクを付けて清掃に当たります。
- （固い）床、壁、金属部分、調理台、シンクなどは水と石鹼（洗濯石鹼や食器洗剤）で洗い流し、泥や破片を取り除きます。
- 高圧洗浄機用いると効果的に洗浄できますが、その際はマスクを着用し換気に気をつけます。
- 浸水して洗うことのできない家具（カーペット、布製ソファ等）は撤去します。

3. 乾燥 洗浄のあとは、乾燥が必要になります。



### 【乾燥のポイント】

- ★晴れた日は窓を開けて、外の空気を取り込みましょう。
  - ★床下の点検口などを開け、できるだけ外気を床下に送り込むようにしましょう。
  - ★灯油は燃焼時に水分を発するので使用は控えましょう。
  - ★換気扇も活用しましょう。
- 湿った空気が留まらないように、空気を動かすことが大切です

#### 4. 消毒 床下は原則、**消毒不要**です。

床上部分の消毒も 1～3 の工程が不十分だと消毒の効果が発揮されません。

### 主な消毒方法について (出典：厚労省「浸水した家屋の感染症対策」)

薬液の濃度や用法など消毒薬は、薄めて（希釈して）使用するものがあります。使用上の注意事項を確認してから使用しましょう。

- 汚染の程度がひどい場合、長時間浸水していた場合は、できるだけ次亜塩素酸ナトリウムを使用する。
- 対象物が、色あせ、腐食などにより次亜塩素酸ナトリウムが使用できない場合は、消毒用アルコール、塩化ベンザルコニウムを使用する。

消毒薬	対象と使い方	
	食器類・流し台・浴槽	家具類・床
<b>次亜塩素酸ナトリウム</b> (家庭用塩素系漂白剤でも可)	<b>0.02%に希釈する</b> ①食器用洗剤と水で洗う。 ②希釈した消毒液に5分間漬けるか、消毒薬を含ませた布で拭き、その後、水洗い・水拭きする。 ③よく乾燥させる。	<b>0.1%に希釈する</b> ①泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる。 ②調整した液を浸した布などでよく拭く。 ③金属面や木面など色あせが気になる場所は、水で2度拭きする。
<b>消毒用アルコール</b>	<b>希釈せず、原液のまま使用する</b> ①洗剤と水で洗う。 ②アルコールを含ませた布で拭く。 ※70%以上のアルコール濃度のものを使用すること ※火気のあるところでは使用しない	<b>希釈せず、原液のまま使用する</b> ①泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる。 ②アルコールを含ませた布で拭く。 ※70%以上のアルコール濃度のものを使用すること ※火気のあるところでは使用しない
<b>10%塩化ベンザルコニウム</b> (逆性石けん)	<b>0.1%に希釈する</b> ①泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる。 ②調整した液を浸した布などでよく拭く。	<b>0.1%に希釈する</b> ①泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる。 ②調整した液を浸した布などでよく拭く。

参考：日本環境感染学会 一般家屋における洪水・浸水など水害時の衛生対策と消毒方法

#### 5. **徹底的**に乾燥 乾燥が不十分だとカビや臭い・腐敗の原因となります。とにかく乾燥を！

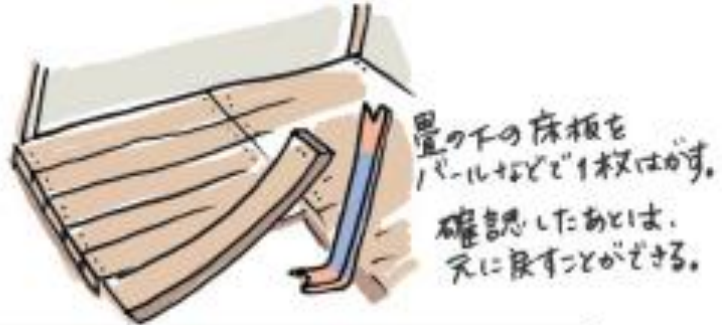
# 床下浸水後の家屋への適切な対応

## <衛生対策の3つのステップ>

1. 床下を確認する 水や汚泥、ごみが残っていないかを確認し除去しましょう。

### 和室の場合

- ・ 畳の下にある板をはがす。
- ・ 板は無垢材なら洗浄して陰干しすれば再利用可能。
- ・ どの部屋の何番目なのか「印」をつけてから外す。

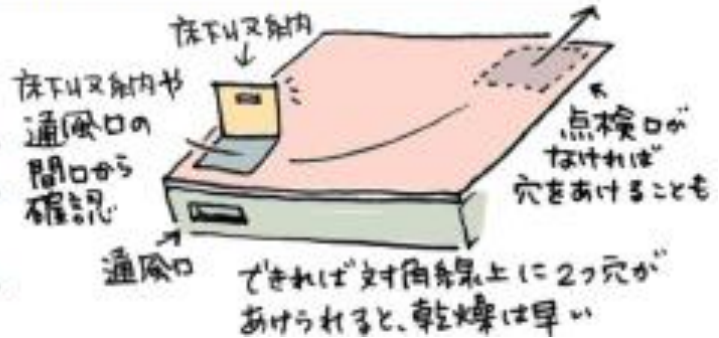


#### ★特に注意すること

- ・ サッシや敷居の下に潜り込んでいる板は無理に外さない
- ・ 一部切断する場合は、根太の中心で切ると再利用可能
- ・ 根太は切らない、どうしても切る場合は、大引きの中心で切る

### 洋室の場合

- ・ 床下収納、点検口を開ける。
- ・ 床下に水や泥があれば除去。
- ・ 点検口などが無い場合は、工務店などで作ってもらう。(相場は2~3万円)



2. 洗浄 泥やごみが付着した部分は**必ず**洗浄しましょう。臭いやカビの原因になります。

- けがを防ぐために厚手のゴム手袋、ゴム長靴（あればゴーグルをつけて目も保護します）、ほこりを吸い込まないためにマスクを付けて清掃に当たります。
- （固い）床、壁、金属部分、調理台、シンクなどは水と石鹼（洗濯石鹼や食器洗剤）で洗ひ流し、泥や破片を取り除きます。
- 高圧洗浄機用いると効果的に洗浄できますが、その際はマスクを着用し換気に気をつけます。
- 浸水して洗うことのできない家具（カーペット、布製ソファ等）は撤去します。

3. 乾燥 床下の消毒は**原則不要**（洗浄した後の乾燥がとにかく重要です！）



#### 【乾燥のポイント】

- ★ 晴れた日は窓を開けて、外の空気を取り込みましょう。
- ★ 床下の点検口などを開け、できるだけ外気を床下に送り込むようにしましょう。
- ★ 灯油は燃焼時に水分を発生するので使用は控えましょう。
- ★ 換気扇も活用しましょう。湿った空気が留まらないように、空気を動かすことが大切です